



グループごとに壁新聞で課題や解決策などを発表

Ⅱ SBFと羽高一年の連携授業Ⅱ 新風車、制服に海鳥、紙芝居 壁新聞で活動の振り返りや提言

【羽幌】羽幌シーバードフレンズリー推進協議会と羽幌高校一年生の連携授業の締めくくりが二十二日、同校で行われ、壁新聞で年間の活動を振り返り、海鳥保護、自然環境を守るための提言、子どもに伝えるための紙芝居、制服に海鳥、SNSによる特裁米のPRなどアイデアを示した。

一年生は総合的な学習の時間のほとんどをシーバードフレンズリープロジェクトにおいて羽幌町環境計画、SBF制度、生物多様性、特別栽培米ほか、ピオトープでの植樹、下草刈り、トンボ調査、海浜ゴミ清掃などに取り組んできた。

十二グループがそれぞれにテーマをピックアップ、自らの活動や海鳥を守るための方策などを発表。同協議会の長谷川雅弘さんが、二年次以降の取り組みについて講話を行った。

農業で使うキレイな水が不足しているといいい、節水とプリン石けんを推奨、バードストライクを避けるための新たな風車を設計図とともに提案。農業と海鳥の連携プレーにSNSで特裁米を拡散、うみどり写真集、ドラマ、キャラクター、お菓子、羽幌高校の制服に海鳥マークを入れるなどの具体案もあげた。

札幌での環境活動発表大会に参加したグループは「多くの人に私たちの活動を知ってもらえた、増え続けるプラスチックの現状にエコバックを使うこと、

高校生が積極的にゴミを拾い、町の人に意識を持たせるほか、子どもたちには紙芝居でキレイにすることの良さを分かりやすく伝える、紙芝居も上演した。

七グループが発表を終えた中間で、同協議会の事務局を担う海鳥センターの木内裕也さんは「いろいろな考え、発想を聴くことができた。授業を企画した甲斐があった」と評価していた。